

洗浄・滅菌の流れ



～基本手順～

1 洗浄 >>> 2 すすぎ >>> 3 乾燥 >>>

- 予備洗浄スプレー
- 浸漬洗浄・超音波洗浄

4 点検・注油 >>> 5 滅菌・消毒 >>> 6 乾燥・保管

- オートクレーブ滅菌
- EOG(エチレンオキシドガス)滅菌
- グルタルアル製剤、及び薬液消毒

1 洗浄

- 器具は使用後、直ちに洗浄することをおすすめします。汚れの固着を防ぎ、洗浄・防錆効果も高くなります。
- 分解できるものは出来るだけ分解し、関節部やロック(止め)部は開いた状態で行って下さい。
- 洗浄後は器具を流水ですすいだ後、完全に乾燥させてから各器具に適した方法で点検・注油・滅菌・消毒を行って下さい。

洗浄の重要性

感染を回避したいという思考から、消毒・滅菌ばかりを気にしがちで、洗浄を後回しに考えている方が多いようです。器具は使用後すみやかに確実な洗浄を行うことで、99.99%の物理的な除菌ができ、傷のない手で触れても感染の危険性はほぼゼロと言われています。洗浄によって消毒に近い効果が期待でき、感染リスクを低減させることができます。

逆に不十分な洗浄はタンパク質(血液等)の汚れが残留し、その中に多くの微生物が残存することになり、その後の消毒・滅菌を不完全なものにしてしまいます。

ミラートップの洗浄について

ミラートップはガラスと鏡枠の間に汚れが残存しやすく、残存した汚れはオートクレーブ滅菌などの熱により、固着してしまいます。

家庭用洗剤での手用洗浄ではなく、医療用防錆洗浄液に浸漬して確実に汚れを除去して下さい。

洗浄不足は曇りの原因にもなります。

その際、超音波洗浄は曇りやキズの原因となりますので行わないで下さい。

使用直後の一次消毒の廃止について

使用後の器具を洗浄しないで消毒や滅菌を行う事は無意味です。

どのような薬液であってもタンパク質(血液等)を変質固着させるため、その後の洗浄で除去が困難になります。一次消毒を繰り返し行うことは、器具のサビにもつながる行為ですので、お避け下さい。

※一次消毒の廃止については、日本医療機器学会より発表された「鋼製小物の洗浄ガイドライン 2004」に記載されています。



下記は、「ミラートップ」を家庭用洗剤で手用洗浄し、オートクレーブ滅菌をしたものと、医療用防錆洗浄液で浸漬洗浄後、オートクレーブ滅菌をしたものです。

家庭用洗剤で手用洗浄



ミラーの縁に残存した汚れが固着し、茶色く変色している。

洗浄液で浸漬洗浄



残存汚れはみられない。

医療用アルカリ性防錆洗浄液「ゼットワンecoファイナリキッド」に15分浸漬

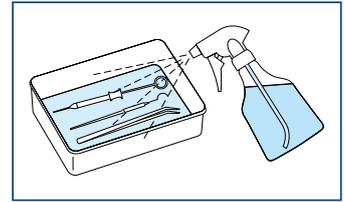
予備洗浄スプレー

器具を使用後、すぐに洗浄できない場合は、汚れの乾燥固着を防ぐため予備で行います。

器具の使用後、すぐに洗浄液に浸漬できない環境（例えば訪問診療など）では、汚れが乾燥固着してしまいます。蓋つきの密閉容器に使用した器具を入れて器具全体にムラなくスプレーしておくことで、血液などの汚れの乾燥固着を防止し、その後の洗浄効果を高めます。

スプレー後は、本洗浄まで乾燥を防ぐため、蓋を閉めておいて下さい。

※洗浄スプレーに適した洗浄液であることを、取扱説明書等でご確認の上ご使用下さい。
※洗浄スプレーには「ゼットワンecoファインリキッド」をおすすめします。



浸漬洗浄・超音波洗浄

器具に付着したタンパク質（血液等）を、洗浄液を使用して除去します。

タンパク質（血液等）が付着した器具は、医療用アルカリ性防錆洗浄液を使用して、確実に除去して下さい。洗浄液へ浸けることで、頑固な汚れや目に見えないタンパク質（血液等）の汚れを浮かすことが出来ます。

デリケートに扱わなければならない器具や、手の届かない部分がある器具にも適した洗浄方法です。



手用洗浄について

手用洗浄は手荒れ、外傷のもとであり、感染リスクも高くなります。ちから加減によっては、器具の損傷・変形にもつながりますのでお避け下さい。

また、クレンザー、ワイヤーブラシ、スチールウール等の使用も器具をキズつける恐れがあるため、行わないで下さい。



洗浄～滅菌・保管時における器具の状態について

より確実に細部まで洗浄・滅菌がされるように、分解できるものは分解し、鉗子などの関節部や持針器などのロック（止め）部は開いておきます。また、使用時以外はロック（止め）部を開放することで、常に器具に応力がかかった状態にならないため、応力腐食割れや金属熱膨張による破損を防ぎます。保管の際もロック（止め）部を開放することをおすすめします。

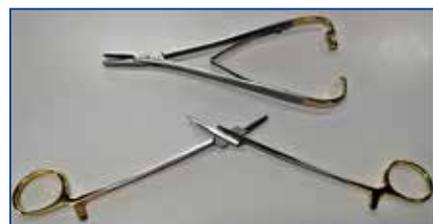
ミラーはミラートップとハンドルを外す。



コンタクトゲージはホルダーからゲージを外す。



持針器はラチェット部（ロック部）を開放する。



開口器はチップを外す。



- 器具は使用後すぐに、必ず洗浄を行って下さい。汚れが乾燥固着して残っていると、滅菌・消毒の効果が低下したり、腐食する恐れがあります。
- ミラー、ペリオプローブは超音波洗浄器にかけないで下さい。また洗浄の際、他の器具との接触は避け下さい。
- 家庭用洗剤はデンプンなどの食品汚れをこすり洗いで落とすために開発されたものであり、血液中に含まれるタンパク質に対しては洗浄効果が期待できません。また着色剤や香料が含まれているため、それらの残存物が汚れの再付着や金属を腐食させることがありますので、ご使用はお避けください。
- 酸性洗剤は金属に対する腐食性が強く、器具に影響を与えるため、お避け下さい。洗浄には医療用防錆洗浄液をご使用下さい。
- 酵素系洗剤は酵素の働きを活性化するために、温度管理(40℃前後)の下で洗浄を行う必要があります。低温では洗浄効果が発揮できないため、恒温槽(保温槽)をご使用ください。

※洗浄にはタンパク質(血液等)の溶解力があり、温度管理の必要がない医療用アルカリ性防錆洗浄液「ゼットワンecoファインリキッド」をおすすめします。

WD (ウォッシャーディスインフェクター) について

洗浄から乾燥まで行える機器として近年では導入されるクリニックが増えています。しかし、誤った使い方とその効果を十分に発揮されていない事例もあるようです。庫内の器具の配置や使用する洗剤は必ず、メーカーの取扱説明書にしたがって行ってください。配置等を間違えると正確な洗浄ができない恐れがあります。



医療用アルカリ性防錆洗浄液
「13538 ゼットワンecoファインリキッド」